

## 十日町市立千手小学校



学校データ

【学級数】

9 学級

【児童数】

148 人

【地域コーディネーターの有無】有

### 「千手の『ひと・もの・こと』から学び、千手への愛と誇りを高めるわかぶなっ子」の育成

#### 1 はじめに

創立 147 年を迎える当校は、信濃川河岸段丘の左岸に位置し、西側には田園地帯が広がる。旧川西町の中心地として、県道沿いには、商店街や市役所支所、コミュニティーセンター、図書館、郵便局、銀行などがあり、人々の生活を支えている。他にも、自然豊かな二六公園や千手観音をはじめとする史跡、妻有大橋や千手発電所など、地域から学びたい、学ばせたい「もの」や「こと」が豊かな地域である。また、学びたい、学ばせたい「ひと」も豊かな地域である。図書ボランティア、水泳の陸上監視補助、スキー授業の指導補助、学年の校外学習の引率補助など、多くの方が教育活動を支えている。

こうした地域の「ひと・もの・こと」からの学びを核として、地域教育プログラムを推進している。

#### 2 取組の実際

##### (1) 「川西しぐれ」で町を元気にしよう(6年生)

平成 30 年度に配置された地域コーディネーターの働きかけをきっかけに、地域の川西商工会や飲食店の人々と関わりながら学習を進めている。



「川西しぐれ」

昨年度は、まず、地域銘柄豚の「妻有ポーク」を使ったしぐれ煮であ

る「川西しぐれ」とその開発に携わった人々と出会い、「地域を元気にしたい」という商品化への思いを語っていただいた。

人々の思いに触れた子どもたちは、自分たちも地域の役に立ちたい、との思いをもった。その思いをもとに子どもたちは話し合い、「川西しぐれ」を使った料理メニューを開発し、それを多くの人に紹介することで、「川西しぐれ」を広めることができるのではないかと考えた。

子どもたちは、商工会の人々に調理の協力を求めたり、試食会を開いて保護者や地域の人々の声を聞いたりしながら、メニュー開発を進めた。こうした活動を進める中で、子どもたちは「川西しぐれ」への愛着を深めていった。

完成した料理メニューを、地域コミュニティーセンター事業である「川西自慢祭」で紹介した。当日は、多くの来場者に「川西しぐれ」と開発したメニュー、自分たちの思いを伝えることができ、子どもたちは、大きな満足感を得た。

活動を通して、子どもたちは、「川西しぐれ」を広め、地域を元気にしようという目標に向けて、仲間や保護者、地域の人々と進んで関わろうとしていた。

「私も地域の一員として、地域の役に立っている」という思い（＝自己有用感）を高めることができたからだと考える。

今年度の6年生も、「川西しぐれ」への地域の人々の思いや昨年度の6年生の思いに触れた。自分たちも「川西しぐれ」を広めることを通して地域を元気にしたいと意欲を高め、取組を進めているところである。

## (2) 二六公園のブナ林を守ろう（5・6年生）

新潟県森林浴百選にも選ばれている校区の自然豊かな「二六公園」で、今年度も保存会の人々の支援の下、ブナの植樹を行った。植樹活動は、「緑の少年団」活動の一つとして継続して取り組み、7年目を迎えている。

保存会の人々は、「千手の地域を大切に思う子どもに育ててほしい。」との願いから隣接するモトクロス場を含めた里山を子どもたちの自然体験活動の場へと整備するために尽力している。その思いを、子どもたちに語っていただきながら活動を続けてきた。「ブナの成長が楽しみです。」「二六公園は、景色がとってもきれいで植物や生き物がたくさん見られる場所です。」と笑顔で話す子どもたちは、二六公園が大好きである。

このように、地域の自然、地域の人々とかかわることで、子どもたちは、地域への愛着を増すとともに、地域への誇りを高めている。

## 3 成果と課題

### 及び本実践で育成された資質・能力

今年度の「小中一貫教育取組評価アン

ケート」（十日町市教育委員会）の「あなたが住む地域や十日町市は好きですか」の項目において、全校の90%以上の子どもが肯定的に答えている。同じく「自分にはよいところがあると思いませんか」の項目において、80%以上の子どもが肯定的に答えている。また、活動中の様子や振り返りの記述からも、地域を愛する気持ちや自己有用感が高まっていることを読み取ることができる。

これらのことから、地域の「ひと・もの・こと」から学ぶ当校の地域教育プログラムは、子どもたちの地域を愛する気持ちを高め、自己有用感の高まりに働いていると考える。今後も子どもの学びの姿から各取組の評価・改善を行い、よりよいプログラムを構築したい。

## 4 おわりに

当校は、平成30年度にコミュニティースクール（CS）が立ち上がった。来年度は地域を巡る全校遠足の企画・運営にも参画してもらう予定である。

地域教育プログラムのねらいは、社会を創るひと（子ども）づくりであると共に、子どもを取り巻く地域社会の活性化である。今後もCSを軸として、学校と地域との協働を進め、「地域から学ぶ」から、「地域と共に学ぶ」視点に進み、「地域の特色を生かし、地域と共に歩む学校づくり」を推進したい。